真実の鏡

祐亜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
真実の鏡

【Ｎコード】
Ｎ９４８０Ａ

【作者名】
祐亜

【あらすじ】
いつの頃からなのか授かった不思議なチカラ…そんな不思議なチカラでアタシは米花町に住む人々の隠された真実を映し出す……

TARGET00：プロローグ

―――アタシはカガミ…

何百年も昔からアタシを使ってくれる持ち主はとてもとても大事に大切にしてくれた。

みんなから大切に扱われたアタシはいつの頃なのか自分の意思を持ち、そして不思議なチカラを手にいれていたわ…。

その不思議なチカラっていうのは《心の奥の真実を映すこと》の出来るチカラ…。

でも、まだ使い方をマスターしていなかったアタシはチカラを使いすぎちゃって今はもう何も映し出すことのできないカガミ…

今からあなたにお話することはアタシが不思議なチカラで真実を見せた人たちのお話…

最後までちゃんと聞いてくださいね。もしかしたらあなたの真実も見えてくるかもしれませんよ……。

TARGET00：プロローグ（後書き）

どーも、祐亜です。　まだ『疑惑』も完結していないのに新しい話、載せちゃいました…（汗）　『疑惑』の方も頑張って更新していくので『真実の鏡』ともども今後も読んでやってくださいm（＿＿）m

ＴＡＲＧＥＴ０１：江戸川コナン（工藤新一）

アタシがチカラを授かって何日かしたある日のこと眩いヒカリが現れたと思うとアタシは突然、異空間へと放り出されたの！！

一瞬、何が起こったのか分からないアタシはだんだんと気が遠くなり意識を失ったわ…

※　※　※

『……ん…ここはどこ？』

気が付くとアタシは今までいたところとはうってかわって、家の中ではあると思うのだけどとても天井の高い…たぶん机の上に立っていたわ…

本能的にここにアタシの初めてチカラを使う…真実を隠している人が訪れるのだと思ったわ…

けれど、その人がいつここに訪れるのかは分からなかったの…

だって、アタシは元はただのカガミ…そして長い長い年月を経てやどったのは意思と真実を映すチカラだけ…

気長に待とうと覚悟を決めた矢先に、

―ガチャ

と、突然ドアを開ける音がしたの！！

アタシにはどんな人が入ってきたのかはわからなかったわ。だって、多分ドアはアタシの後ろにあったんだもの。　入ってきた人物がアタシに気付いてくれるのかとても不安だったわ。

ガサガサ…コトッ…パラパラパラパラ…

…何か探しているようだったわ。最初、ここにきた時は何が起こったのかで頭がいっぱいだったけれどよく周りを見る…まぁ、見える範囲だけど、たくさんの本が並んでいることに気がついたの。

きっと入ってきた人物はここにある本を探しにきたのだと思ったわ。…と、アタシは下の方で何か動いているのに気がついたの。

何かしら？と思っていると、頭らしいものが見えたわ。

『え？こ、子ども！？』

アタシは愕然（がくぜん）としたわ。　だってそーでしょ？初めてチカラを使うのがこんな子どもなのよ？こんな子どもがいったいどんな【真実】を隠してるっていうのよ！！……なんてね。　そんなはずないわ…

きっとこの子以外の人物がここを訪れる…はずよ！！

そう思っていたのにアタシは、

《…ねぇ、あなたは何を隠しているの？》

と、子どもに話しかけていたわ。

「…ん？　…空耳か？」

声からして男の子…かしら？　その子はアタシの声を空耳として捉え、またガタガタと本棚をあさり始めた。

あら、気付かなかったのね。　…って、どうしてアタシはこの子に話しかけたのかしら？　この子に話しかけてアタシはどうしたらいいのかしら？

そんな事を考えていると、視線を感じたの。

「……？？　こんなとこにカガミなんてあったっけ？」

その子どもがジーッとアタシの方を見て言ったわ。

アタシはその子を見て、何か変な感じがしたの。

だって、姿は子どもなのにその姿すらも偽りにみえたから…。

アタシは直感したわ。やっぱりこの子が初めてチカラを使う人物なのだと…。

《…あなた、何を隠しているの？》

アタシはもう一度、その子どもに問いかけた…。

ＴＡＲＧＥＴ０１：江戸川コナン（工藤新一）（後書き）

ここまで読んでくださり、ありがとうございましたｍ（＿＿）ｍ
なんか…微妙ですね（汗）　みなさまに次が楽しみと思っていただけるような話を書いていきたいと思っているので、今後もどうかよろしくお願い致しますｍ（＿＿）ｍ

TARGET01－1：江戸川コナン（工藤新一）

《…あなた、何を隠しているの？》

アタシはもう一度、その子どもに問いかけた…。

すると、その子どもは目を白黒させながら

「…！！な、なんで鏡が話しかけてくるんだ！？…いや、きっと疲れてるんだ！最近、遅くまで本を読んでたからなぁ…。今日は帰るか…」

その子はアタシが話しかけたのを疲れのせいにして手に持っていた本を棚に戻し踵（きびす）を返してドアの方へと歩いていったの。

《ち、ちょっと待ちなさいよ！！気のせいじゃないんだから！！》

そう話しかけるとその子はパタパタと走って戻ってきて、

「…やっぱり気のせいじゃないのか！？いったいどうなってるんだ？？」

その子はアタシを手に取りマジマジとアタシをみたの。

その子がアタシを手に取り覗きこんでくれたお陰でその子の何が偽りか気付いたの。

《…あなた、姿が偽り（いつわり）ね。本当は…そう、高校生ね…》

この真実に少しアタシは驚いたわ。でも、もっと驚いたのはその子…いえ、彼だったわ。彼は大きな目を一層大きく見開き、

「…っつ、な、何言ってんだ？そ、そんな事あるわけないだろ？」

と言ったわ。けれどそんな偽りはアタシには通じない…

《あら？アタシに隠し事は不要よ？だって、アタシは真実を映すカガミなのだから…》

アタシがそういうと彼はアタシを机の上に置き、頭をかきながら、

「なんなんだ！？　博士の発明か？」

と、ブツブツ言ってるもんだからついイライラしちゃって、

《だーかーらぁ、真実を映す物だって言ってるでしょ！？アタシにはあなたが隠している事が全て手にとるように分かるのよ！何度言わせる気なの！？》

と、少し冷静を欠いてしまったわ。

彼は少し考えて、

「…本当に俺の事が分かるのか？」

と、まだ半信半疑だったけれど聞いてきたの。

アタシは、はっきりと《分かるわよ》と答えたわ。そして、付け加

えてこうも言ってあげたの。

《アタシはあなたが心に閉まっている大切な想いも映し出すことが出来るの。アタシにあなたを写してみてごらんなさい。　あなたが言葉にしたくても出来ない想いが見えてくるから…》

彼は、

「本当かよ！？」

と言いながらも自分自身をアタシに写したわ。彼の姿がアタシに写し出されるとアタシから眩い（まばゆ）光が出て彼をつつみこんでいったわ。

そして、アタシには彼の深い深い想いが映し出されたの…。

TARGET01－1：江戸川コナン（工藤新一）（後書き）

どうもお久しぶりです（汗）　なかなか忙しく投稿することが出来なくてすいませんm（＿＿）m　…さて、なんか微妙な感じですね（汗）　駄文で、すいませんm（＿＿）m　合間を見付けて、考えてるのですがなかなかうまくいきません…。（“疑惑”の方も行き詰まりで…（汗））ですが、頑張って投稿していきますので、“疑惑”共々、最後までよろしくお願い致しますm（＿＿）m

ＴＡＲＧＥＴ０１－２　江戸川コナン（工藤新一）～深意～（前書き）

短いで

気持ちの表しかたがポエム風になっております。

す…

TARGET01－2　江戸川コナン（工藤新一）～深意～

ナカナイデクレ…

ドアを開けるとキミは声を殺して静かに泣いていた…

…マタ、オレノセイ

キミにはいつまでもずっと笑顔でいてほしいのに…

目にたくさんの涙を浮かべているのはオレのせい…

いつもどんな時も待たせているのはオレ…

どんなに会いたくてもキミに会えるのは…会わせてあげられるのは声だけ……

それさえも機械ごし…

本当の声なんてきかせてやれない…

キミに初めて会ったあの日、オレはキミを守っていきたいと思った…

キミの笑顔を守りたいと、キミを悲しませるどんな事からも守りたいと思った…

でも、その願いを自ら崩してしまった…

オレは今キミに何をしてあげられるだろうか…

キミに誓う…どんな事があっても必ず逢いにゆくと…
それまでは小さきナイトとして少しでも多くキミに笑顔をもたらす事を…

キミの心からの笑顔を取り戻すその日まで……

《…ねぇ、これはあなたの気持ちだった?》

しばらくしてアタシは彼に問掛けてみた。アタシが感じた彼の気持ちがとても心が痛くなるものだったから。

すると彼はアタシから一歩下がって、

「……ハハハッ、確かに俺の気持ちだ…。言葉に表されるってのはかなり…痛い」

そう言った彼をみてアタシは、ハッ!としたわ。だって、彼から一筋の光ものが流れていったから…。

そして暫くの間、沈黙が流れたわ。　それはたった数分の間だったんだけどアタシにはその沈黙という静寂がとても長いものに感じた…。

TARGET01－2　江戸川コナン（工藤新一）～深意～（後書き）

どうも祐亜です！　心の奥の気持ちをポエム風でおおくりいたしましたが、いかがだったでしょうか？　…駄文ですいません（汗）しかも短い…。　それでもここまで読んでくださってありがとうございますm（＿＿）m次回も是非読んでくださいますようお願い致しますm（＿＿）m（＾Ｏ＾）

ＴＡＲＧＥＴ０１－３：江戸川コナン（工藤新一）（前書き）

かなり久しぶりに書き、文が変かもしれません；

TARGET01－3：江戸川コナン（工藤新一）

……暫くしてアタシは沈黙に耐えきれなくてこの静寂しきった空気を破った…。

「…確かにあなたはは大切な人に会うことができない…　それをしたのはあなた自身よ…　あなたはいつも側にいるのに大切な人からすればそれは“高校生”としてのあなたじゃなく“小学生”としてのあなたでしかない…　でも、あなたは姿が違ってもあなたでしかないのだから、あなたが見た深く想っていた気持ちを大切にして、今、その姿で出来る事を精一杯やりなさい！きっと伝わるはずよ、あなたの気持ちが…。大丈夫、あなたの大切な人も分かっているはずだから…」

彼はアタシの話を真剣な顔できいていたけど、アタシが話終えると、

「プッ…、まさかカガミに励まされるとはねぇ！」

と、人が…いえ物が折角（せっかく）真剣に話してたのに突然噴き出したかと思うととても失礼な発言をしてくれたわ。

「あなたねぇ…」アタシが文句を言おうとすると彼はアタシにこう言ったの。

「…ありがとう」

と。

そして彼はこう続けた。

「本当は最近少し不安に思っていたんだ。　本当に俺は蘭に待っていてもらう、そして、守っている自分に価値があるのかを…
でも、オメーに本当の気持ちを教えてもらって、自分で誓った言葉に迷いなんてなかったって改めて気づかされた。俺は今ここで新たに蘭を守っていくことをここに誓う。オメーが証人になってくれるよな？」

そう言う彼の顔はとても綺麗で鏡のアタシでも見取れてしまいそうになるものだった。

「えぇ、もちろん。そして、あなたと大切な人がいつか真実のままで出会えることを願っているわ。」

それを聞いた彼は少し、はにかんで笑い、

「…ありがとう。じゃあな。」

そう言って、彼は部屋から出て行った。

彼が出ていった後、アタシは心がとても温かいような気がした。

『人の真実って本当にとても深いのね…』

そんな事を考えているとどこからか自分が必要な気配がする気がした。

と、また目の前に眩いヒカリが現れアタシはまた異空間へと放り出された…。

ＴＡＲＧＥＴ０１－３：江戸川コナン（工藤新一）（後書き）

どうもかなり久しぶりです；
まだもう１つの方も終わってなく両方とも中途半端ですいません；
しかも、話が意味不明になってるような…
どこが悪いとかなど色々なコメントをもし良ければお願いいたします m（＿＿）m

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9480a/

真実の鏡

2010年12月3日05時30分発行